

都市再生整備計画 事後評価シート
三峰川流域地区

平成23年3月

長野県伊那市

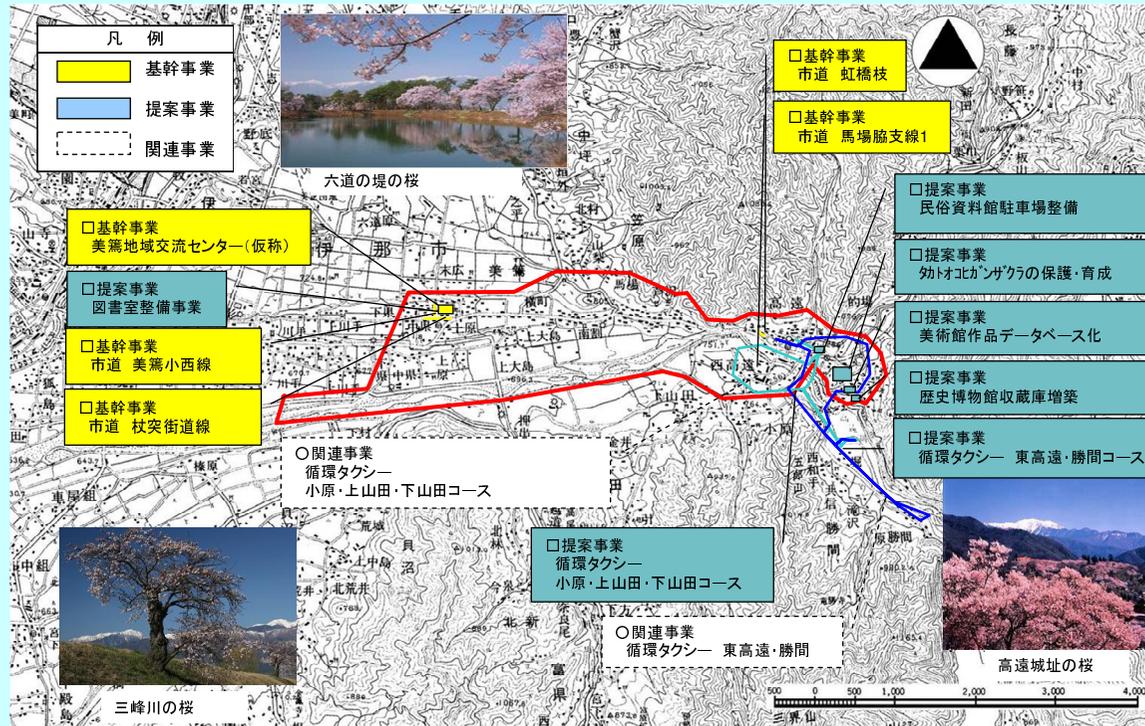
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	伊那市		地区名	三峰川流域地区			面積	700ha		
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	693百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路：市道虹橋枝線、市道馬場脇支線1号									
			提案事業	地域創造支援事業：美術館作品データベース化、歴史博物館収蔵庫増築、足の確保対策、タカトコヒガンザクラ保護・育成									
	当初計画から削除した事業		基幹事業	道路：市道虹橋線	地権者の理解が得られなかったため事業中止			指標1「虹橋通行者数」に関連するが、指標目標は据え置く					
			提案事業	-	-			-					
	新たに追加した事業		基幹事業	①道路：市道杖突街道線、市道美駕小西線、高次都市施設：美駕地域交流センター ②地域生活基盤施設：防災拠点施設整備（美駕小学校体育館耐震工事）		①市町村合併に伴い、地域の一体感を醸成するため、地域住民の交流の拠点となる地域交流センター及びその周辺道路の整備事業を追加 ②地域住民の安心・安全を確保するため平成19年度に追加その後、他の国庫補助事業で実施することとなったため平成20年度に削除			①「地域交流センターの利用者数」の指標を追加 ②当初計画どおりの実施となったため、指標目標には影響なし				
			提案事業	①地域創造支援事業：図書室整備 ②地域創造支援事業：民俗資料館駐車場整備		①市民の利便性の向上のため、地域交流センター整備にあわせて追加 ②地域住民や観光客が気軽に歴史・文化に触れる機会を創出するため追加			①「地域交流センターの利用者数」の指標を追加 ②指標2「信州高遠美術館入館者数」及び指標4「高遠城址公園観覧期入場者数」の指標に関するが、数値目標は据え置く				
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成20年度		変更		平成18年度～平成22年度		計画していた事業の延伸に伴い、交付期間を延長 延長の効果を見込み、循環タクシー乗車人数の指標を上方修正				
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	虹橋通行者数	人	6	H16	観覧期(4月)600人/月	H22	-	観覧期(4月)1,800人/月	○	あり なし	道路事業の実施により、道路の安全性が確保され、高齢者から子どもまでが安全に通行できるようになったことにより、通行者数が大幅に増加した。	H23年4月
	指標2	信州高遠美術館入館者数	人	23,022	H16	25,324	H22	26,859	13,207	×	あり なし	景気の低迷の影響による高遠城址公園への観光客の減少もあり、入館者数の増加という目標は達成できなかった。しかし、貴重な作品・資料の保存・管理体制の整備や利用しやすい施設の整備といった面で事業効果は現れている。	H23年4月
	指標3	地域交流センターの利用者数	人	12,020	H17	18,030	H22	-	27,274	○	あり なし	図書室を備えた地域交流センターと周辺道路を一体的に整備したことにより、利用者の利便性が向上し、利用者数が大幅に増加した。特に、図書室は利用者数の増加に寄与した。	H23年4月
	指標4	高遠城址公園観覧期入場者数	人	314,778	H17	346,256	H22	290,572	229,430	×	あり なし	景気の低迷の影響もあり、観光客の増加という目標は達成できなかった。しかし、桜を中心とした市民の一体感が醸成されるとともに、市民参加によるまちづくりの機運が高まったという面で、事業効果は現れている。	H23年5月
指標5	循環タクシー乗車人数	人	2.3	H16	2.6	H22	3.1	2.7	○	あり なし	循環タクシー2コースについて、随時運行内容を見直しながら継続して運行することにより、利用者の利便性が向上するとともに地域住民に運行が浸透し、乗車人数の増加に貢献した。	H23年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	<p>・市では、桜の本数などでは無く、心を育てる、愛着心を育てる、思いやりを育てるなど、桜を通じて、「市民の桜に対する思いやりが日本一」を目指し、「日本一の桜の里づくり」を進めている。</p> <p>・市の花に「さくら」が決定したこともあり、市内各地で地域住民が主体となった桜の植樹等が行われるなど、本地区での取り組みが、着実に市全域に広がっている。</p>												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等						
	モニタリング	各所管課保有のデータを基にモニタリングを実施し、事業の進捗状況、効果及び指標の検証を行った。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			●		事業の実施に当たってはモニタリングを実施し、適正な執行管理に努める。また、モニタリング結果に基づき随時事業内容等を見直すなど、有効に活用する。				
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

三峰川流域地区(長野県伊那市) 都市再生整備事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
1. 既存観光施設の整備・充実と、地域の資源・特色をいかした新観光スポットの創出などによる年間を通じた観光客の誘致 2. 市の観光財産である「タクトオコヒガンザクラ」の保護・育成、またそれらの地域資源を生かした日本一の桜の里づくり 3. 古い歴史と豊かな文化の魅力が溢れる地域づくり 4. 居住地域において高齢者から子どもまでが安全で快適に過ごせる生活環境(交通手段)の確保	虹橋通行者数	単位:人	6	H16	観桜期(4月)800人/月	H22	観桜期(4月)1,800人/月	H22
	信州高遠美術館入館者数	単位:人/年	23,022	H16	25,324	H22	13,207	H22
	地域交流センターの利用者数	単位:人/年	12,020	H17	18,030	H22	27,274	H22
	高遠城址公園観桜期入場者数	単位:人/年	314,778	H17	346,256	H22	229,430	H22
	循環タクシー乗車人数	単位:人/年	2.3	H16	2.6	H22	2.7	H22



まちの課題の変化

- ・虹橋歩道部分へのアプローチ道路(虹橋枝線)や周辺道路(馬場脇1号支線)を整備することで、高齢者から子どもまでが安全で快適に過ごせる生活環境が整ったが、一部狭い道路が残されている。
- ・美術館作品データベース化及び歴史博物館収蔵庫増築を実施することで、文化的・歴史的に貴重な作品・資料の保存・管理体制は整ったが、芸術的風土を次世代に継承するため、保存・管理された作品・資料の有効活用による信州高遠美術館の入館者数の増加が必要である。
- ・循環タクシー2コースを運行することにより、地域住民の足の確保ができた。
- ・タクトオコヒガンザクラの保護・育成事業の実施により、「日本一の桜の里づくり」が進み、桜を中心とした市民の一体感が醸成されるとともに、市民参加によるまちづくりの機運が高まったが、まちづくりの礎となるまちの活気を創出するため、高遠城址公園の観桜期入場者数を増加させることが必要である。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・文化的・歴史的な作品・資料等の有効活用を図るため、資料等の調査研究を進め、作品・資料の一層の充実を図るとともに、積極的に公開・活用を図る。
- ・足の確保については、循環タクシー運行のPRに努め、利用の促進を図るとともに、住民自らが主体となったボランティア移送事業等の取組の拡大・充実を図る。
- ・市の花「さくら」を中心に、人と人、地域と地域のつながりをより一層深めるとともに、市民が主体となった活動を支援し、市民が主役のまちづくりを進める。
- ・通学路や交通量の多い路線など必要性の高い道路の整備等を計画的に実施する。
- ・信州高遠美術館は、高遠城址公園との連携を強化し、観桜期の集客効率の向上を図るとともに、収蔵品や民間活力等を活用しながら、魅力ある企画・イベントを提供し、入館者の増加を図る。
- ・高遠城址公園は、旅行代理店等と連携し、個人・小グループの誘客を強化するとともに、外国人来訪者が旅行しやすい環境の整備や積極的なPRを行い、外国人来訪者の増加を図る。